
留守電

アメメン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

留守電

【Nコード】

N3319C

【作者名】

アメメン

【あらすじ】

入院していたお袋の容態が急変して亡くなった。病院での手続きや葬儀の手配等を済ませて自分のアパートに喪服を取りに戻る。思いがけず、亡くなる前に母が入れたメッセージが留守電に残されていた。

父ちゃんは、ホンマに大嘘つきや。

だらしのうて・・・ぐうたらで・・・大酒飲みのおんぼんたんや。

他所に女こさえて・・・ついでに借金までこさえて・・・嘘つきのオマケに（お前の病気は俺が治したる）なんてなあ。

そやけどなあアンタ、父ちゃんを恨んだらあかんよ。

あの人の嘘を信じたから、ウチは、今まで生きてこれたんやから。

お医者さんも看護士さんも、話す時に・・・母ちゃんの目・・・見てくれんようになつたんや。

今じゃ、父ちゃん言葉だけが、頼りさあ。

おかしなもんやろう？

あん人は、アンタには良い父親じゃなかったかもしれんけど、面倒見てやってな。

あれでも、母ちゃんにとっては、支えやつたんやから・・・。

これが、母ちゃんの最後の頼みや。

途中で激しく咳き込んだりしたせいで、お袋が残したメッセージは3回に分けられて留守番電話に録音されていた。

入院していたお袋の容態が急変したという連絡を受け、いつもの店で飲んだくれていた親父を担いで病院に駆けつけたのは、一昨日の晩の事だった。

お袋は、目を開ける事も無く眠り続けて、そのまま逝ってしまった。

病院での色々な手続きを済ませ、お袋を家に連れて帰ったり、葬儀の段取りをしていたもので、自分のアパートに喪服を取りに戻れた

のは、明け方近くなってからだった。

靴下を脱ぎながら、点滅している留守番電話の再生のボタンを押す。ゼーゼーという苦しい呼吸音に、思わず耳をそばだてた。

その後流れてきた声に、心臓が止まりそうになった。

俺はその場に座り込み、しばらくは動く事が出来なかった。

こんな電話をかける為に、寒くて長い病院の廊下を歩いたりしたから、お袋の容態は急変したに違いない。

親父の事なんか、放っておけばよかったのに・・・。

十日ぐらい前に、親父は、酔った勢いで、店の女将に絡んでいた客と喧嘩をした。

でも、助けるつもりが逆にやられてしまったのだ。

あんまり酷く殴られていたので、見かねた女将さんが警察を呼んだのだが、相手の身なりがキチンとしていた為に、女将さんの説明も虚しく悪者にされて交番に引張られたのは親父の方だった。

その事を聞いたお袋が、酷く憤慨していたと、向かいのベッドに居た婆さんが教えてくれた。

全部終わってアパートに戻った晩、とてつもない喪失感と、この数日の疲れのせいで僕は眠り込んだ。

そして、夢を見た。

親父が、お袋のやっていた小さな美容室の椅子に座っている。

文字通り『髪結いの亭主』だった親父。

好き勝手に生きてきた肩が、がっくりと垂れ下がり、痩せこけて一回りくらい縮んだように見える。

その肩に活を入れてやろうと、ポンと叩こうとした時だった。

何処からとも無く、悲しいな嗚咽が聞こえてきた。

夢の中の親父が泣いているのだろうか・・・。

それとも、眠りながら泣いている俺自身の声なのだろうか・・・。

目が覚めた時・・・俺は、何故だか解らないけど、この部屋を引き払って、あの美容室の2階で親父と一緒に住む決心をしていた。
おわり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3319c/>

留守電

2011年1月25日03時18分発行